の子育て世帯の方々に御利用いただきました。今後さらに，民間における都市型住宅の整備促進を図るなど，子育て世帯を初め，多様な住宅ニーズに対応した居住誘導施策を推進してまいりたいと考えております。

まちなか居住を促進する上では，これらに加え，先ほど申し上げた子育て支援などの福祉サービスの充実はもちろんでありますが，生き生きと働ける場や買物の場の確保，バスなどの公共交通の利便性の向上，バリアフリーの推進なども欠かせないものであります。

したがいまして，事業所誘致などにも力を入れていきたいと思いますし，食料品や日用品を扱うスーパーの誘致も進めていきたいというふうに思っていますし，それから医療拠点の充実，さらにはバス路線の再編に向けた公共交通の整備，さらには歩きやすい道路空間などにも努めていきたいというふうに思っております。

さらには，水戸芸術館，弘道館，偕楽園，千波湖など，芸術・文化・自然といった魅力的な資源が多数存在する水戸ならではの水戸らしいライフスタイル，風情を感じ，豊かで潤いのある暮らし方の提案なども，広く発信をしていきたいと考えております。

次に，新市民会館整備に係る道路混雑でございますけれども，私は，一定の時間内に特定エリアへ車が集中しないような施策を重層的に展開することが必要であるというふうに考えております。

他市の事例では，施設の駐車場の空き情報を施設のホームページで随時提供するほか，周辺の空き駐車場を探して迷走することがないよう，適切に誘導するために，周辺の民間駐車場の位置や料金体系を集約した駐車場マップのような情報をホームページに掲載するなどといった事例もあります。

本市の中心市街地には，約９，３００台分の民間駐車場がありますので，これらの活用についても選択肢の一つとして捉え，先進事例を参考にしながら，少し離れた場所に駐車することで，まち歩きを楽しみ，渋滞にも巻き込まれないなど，メリットについても周知を図り，渋滞緩和に向けた情報提供を検討してまいりたいと考えています。

また，パークアンドライドにつきましては，新市民会館の大規模イベント時において，公共交通機関の利用促進に加え，周辺の公共施設の駐車場を活用した臨時シャトルバスの運行などを検討するとともに，バスからのスムーズな乗降が可能となるための一時停車スペースの設置などについても検討をさせていただきたいと思っています。

さらに，自転車の利用促進につきましては，ただいまの御提案を初め，市民の皆様の御意見を参考にさせていただきながら，駐輪場をしっかり整備をして，施設利用者に，環境にも優しく健康増進にも効果的である自転車の活用を積極的に促していきたいと考えています。

新市民会館における交通対策については，周辺道路の整備を初め，公共交通や自転車の利用促進を図るほか，信号機処理を検討するなど，関係部署においても連携を図りながら，にぎわいの創出や交流人口の増加による，まちの活性化と魅力あふれるまちの実現を目指してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（村田進洋君）　３番，播田實澪君。

〔３番　播田實澪君登壇〕

○３番（播田實澪君）　常磐大学のコミュニティ振興学部の播田實澪でございます。水戸市女性議会

２０１６の開催に当たり，元木ゼミナールを代表して，通告に従い，質問いたします。

水戸市における観光行政に関するおもてなしについてお伺いいたします。

最近，日本が目標としている訪日外国人数に関して，２，０００万人を超えるという大きなニュースがございました。

水戸市では，第６次総合計画にもありますように，２０２３年度までに観光交流人口４５０万人を目標として日々努力されていることと思います。また，水戸市観光基本計画では，外国人の年間入込観光客数の目標を１０万人に設定し，インバウンド観光の推進にも励まれていることと思います。

私は，水戸駅の中でアルバイトをしていることもあって，水戸に観光に来られた方々と会話する機会がございます。もちろんお店に外国人の方が来店されることもございます。そのようなときは，身振り手振りも交えながら，何とかコミュニケーションをとるようにしておりますが，いつもきちんと伝わっているか自信が持てませんでした。しかし，この前来店された外国人のお客様とのやりとりは少し違っておりました。その方は，スマートフォンを使って，母国語と日本語の相互翻訳ができるアプリを巧みに利用しながら，私とのコミュニケーションを図ったのであります。そのおかげで，スムーズな接客対応をすることができ，自信をもって商品をお渡しすることもできました。

外国人の方とコミュニケーションをとることは，一見難しいことのように思われておりますが，スマホなどによりインターネットを利用すれば，外国語が苦手だと感じている方にも，比較的簡単にコミュニケーションをとれるのではないかと感じたところであります。

そこで，水戸市では，外国人観光客を初めとする観光交流人口を増加させる取り組みの一つとして，おもてなし力の向上に努めておりますが，例えば，おもてなし会話集やＷｉ－Ｆｉ，公式スマートフォンアプリであります「水戸のこと」などのように，おもてなしに関する施策の推進，言語の壁を感じずに，市民が外国人などの観光客と接する際に抱く不安のフォローや，その解消，声をかけやすいような体制や環境づくりなどを進めていくことが重要であると考えております。

ここで，おもてなしに関する質問をさせていただきます。

水戸市の第６次総合計画では，おもてなし力の向上を位置づけておりますが，水戸市として考えているおもてなしとはどのようなことなのか，お伺いいたします。

また，インバウンド観光を推進されるに当たって，外国人観光客に対して行っているおもてなしの具体的な取り組みとその成果についてお伺いいたしまして，質問を終わらせていただきます。

明確な御答弁のほうをお願いいたします。ありがとうございました。

○議長（村田進洋君）　ただいまの質問に対する答弁を求めます。

市長，高橋靖君。

〔市長　高橋靖君登壇〕

○市長（高橋靖君）　常磐大学コミュニティ振興学部元木ゼミナールを代表されましての播田實議員の御質問にお答えをいたします。

初めに，本市の考えるおもてなしについてでございますが，私は，水戸の有する特色ある観光資源を磨き上げ，魅力を効果的に発信するとともに，海外からの観光客を誘致するインバウンド観光の推進に取り組

み，そして何よりも，水戸を訪れる観光客を温かく迎える意識の醸成を図りながら，まち全体のおもてなし力を向上させ，水戸を訪れる方が楽しいと思っていただく，また来たいと思っていただけることが，真のおもてなしであるというふうに考えております。

現在，本市では，観光施設までの行き方をわかりやすく伝える観光案内板等の整備のほか，外国人観光客にも対応できる観光ボランティアやおもてなしマイスター，優良タクシー乗務員認定事業など，組織的な受入体制を図っているところでございます。また，市民や，ホテル・飲食店等関係団体のホスピタリティ事業への積極的な参加を促すため，おもてなしの会話集やガイドブックの作成や配布，そして，市民向けおもてなし講座の開催により，所作や気遣いとともに，水戸の歴史や観光施設の情報を身につけていただくなど，市民，事業者，行政との協働体制によるおもてなし力の向上にも取り組んでいるところでございます。

水戸の梅まつりにおいては，中学生ボランティア「チーム魁」による観光客のお出迎えやパンフレットの配布などを初め，小学生による偕楽園記の素読などを実施し，子どもたちのおもてなしの心の醸成を図っているところでございまして，観光客の皆様方からは，その姿勢に感動の声が届いてございます。

また，先月３０日の水戸黄門漫遊マラソンにおきましては，多くの市民，地域団体，企業等からの御支援，御協力によりまして，大会の準備，運営補助にとどまらず，当日の水戸駅でのお出迎え，ランナー応援隊として，沿道からの絶え間ない声援をいただき，演奏やハイタッチなど，約１万３，４００人の参加者を初め，全国に対して，本市のおもてなし力の高さをアピールできたものと実感をいたしております。

観光地の印象は，魅力ある観光資源はもちろんのことでありますが，観光客を温かく迎える心遣いによっても大きく左右されます。

現在，水戸市と商工会議所が連携をし，おもてなし水戸っぽ隊として，個人や団体を問わず，みずからが目指す，観光客への声かけや，親切・丁寧な道案内等のおもてなしを宣言・実践するプロジェクトを展開しておりまして，行政，観光団体のみならず，これらの取り組みを一層進展させて，市民一人一人が，ホスピタリティにあふれる，おもてなし力の高いまちづくりに努めてまいりたいと考えております。

次に，外国人観光客に対するおもてなしの具体的な取り組みと成果についてお答えをいたします。

訪日外国人旅行者は，ここ数年間で急激に増加をしておりまして，本年１０月末時点で，昨年を上回る２，０００万人を突破したところでございまして，２０２０年のオリンピック・パラリンピック東京大会の開催に当たりましては，さらに多くの外国人観光客が日本を訪れてくることが見込まれております。

外国人観光客の来訪は，大きな経済波及効果を生み出すものと期待をされていることから，本市におきましても，外国人観光客を受け入れるための環境の整備，充実に取り組むとともに，インバウンド観光の一層の推進を図ってまいりたいと考えています。

これまでの取り組みといたしましては，外国人向けの観光ＰＲ動画の制作・配信を初め，外国語観光パンフレットの作成，多言語併記の案内板整備など，言語のバリアフリー化を，まず進めてまいりました。また，水戸芸術館や水戸市植物公園等の公共施設へのＷｉ－Ｆｉスポットの整備，そして，観光施設や店舗の情報，バスや車のルート案内等の機能を持つスマートフォン・タブレット端末向けアプリケーション，いわゆる「水戸のこと」の英語版の開発など，外国人観光客が安心して，快適に移動，滞在，観光することができる受入体制の整備に努めてきたところでございます。

特に，本市の観光案内の起点ともいえる水戸駅構内の観光案内所においては，英語で対応可能なスタッフを常駐させておりまして，平成２７年度には，ＪＮＴＯ認定外国人観光案内所として，カテゴリー２の認定もいただきました。外国人観光客に対しまして，的確でわかりやすく，きめ細かな観光案内を，引き続き行っていきたいと考えております。

これらの成果といたしまして，昨年度の観光庁統計による外国人の水戸市内宿泊者数は，前年度比で５，３２７人，３２％増の２万１，７４１人となりまして，また，観光案内所の外国人案内件数は，前年度比で２５０件，５５％増の７０５件と，水戸に訪れる外国人観光客は増加をしているところでございます。

私は，言葉や文化，慣習などの異なる土地に来訪するという不安や不便さを感じさせず，心から楽しいと思っていただくことが，外国人観光客に対してのおもてなしだというふうに考えております。したがいまして，飲食店の食事メニューの外国語表記や，ビジネス会話の習得などのような，民間事業者のインバウンド促進の取り組みに対する支援をするとともに，外国語ボランティアの充実を初め，先ほど申し上げたアプリケーションソフトの「水戸のこと」の中国語や韓国語などにも対応した機能拡充，さらにはＷｉ－Ｆｉスポットの拡大など，受入体制の充実とあわせて，情報発信ツールの利便性を幅広く周知をして，そして，案内サービスのさらなる強化に努めていきたいと考えています。

また，外国人観光客に対し，本市のイメージや知名度を高めるプロモーションや特設ウエブサイトの制作，さらにはニーズを捉えるためのマーケティング等も実施をしてまいりたいと考えています。あわせて，私たちにとって，不慣れな相手である外国人の方々にも，心からおもてなしができるよう，市民，事業者の皆様とともに，ホスピタリティの醸成に努めてまいりたいと考えています。

私は，これらまち全体のおもてなし力の向上やインバウンド観光の推進とともに，観光振興に資する施策を戦略的かつ総合的に展開をして，訪れてみたい，めぐりたいと思える，そして，水戸に訪れてよかったと，そして，多くの方に伝えていただけるような観光の都市づくり，まちづくりを進めていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（村田進洋君）　４番，大森未稀君。

〔４番　大森未稀君登壇〕

○４番（大森未稀君）　茨城大学の大森未稀でございます。水戸市女性議会２０１６に当たり，茨城大学人文学部清山ゼミナールを代表して，通告に従い，質問を行います。

私からは，ニュースや授業でも取り上げられ，非常に身近な問題となっている子どもの貧困問題，そして，保育所行政，この２点について，質問させていただきます。

まず初めに，子どもの貧困対策についてお伺いします。

現在，子どもの貧困が大きな問題となっています。厚生労働省の国民生活基礎調査によると，子どもの貧困率は１６．３％，約６人に１人が貧困状態に陥っています。日本の子どもの貧困率はＯＥＣＤの中でも高く，事態は深刻です。県内の子ども食堂のボランティアに参加した際にも，１日の食事が給食のみであったり，経済的理由から学びたくても学べないという子どもたちを目にし，ショックを受けました。

さらに，経済的理由により高等教育を受けることができないと，賃金の安い雇用につきやすくなります。